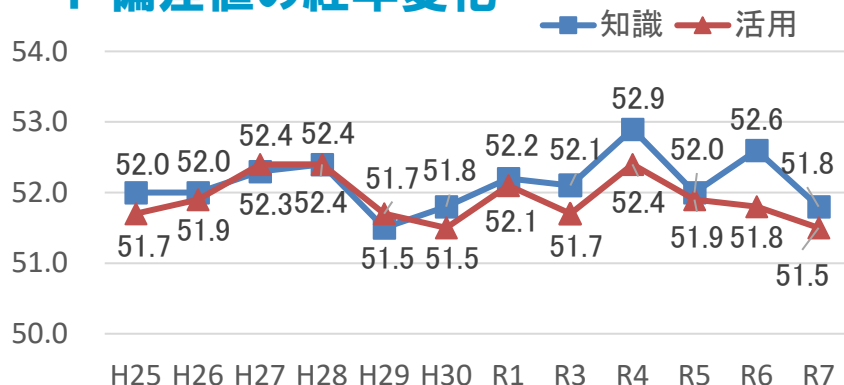


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	72.3	68.0	68.5
思考・判断・表現	64.8	59.4	59.4

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
数と計算	73.0	69.2	68.6
図形	66.8	61.0	62.2
変化と関係	66.2	64.7	63.3
データの活用	70.4	66.6	61.7

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	75.1	71.1	70.3
短答	68.3	64.2	65.0
記述	47.4	42.1	40.0

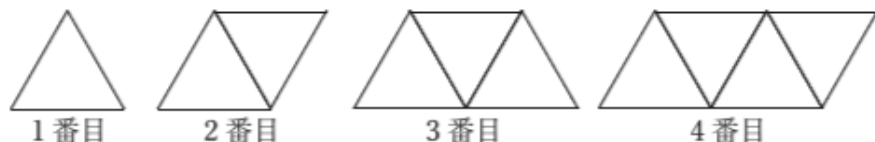
○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

■ つまづきが見られた問題

大問14(2) 県正答率38.4% 全国正答率42.3%
【ねらい】 伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができる。

【問題の概要】

正三角形の数とまわりの長さの関係を表した表をもとに、2つの数量の関係を表す式を求める。（記述）



三角形の数(□)	1	2	3	4	...
周りの長さ(△)	3	4	5	6	...

【正答例】

正三角形の数とまわりの長さの数値同士を関連付け、関係を表す式を求める。

◆ 考えられる原因

○ 伴って変わる2つの数量の关系到目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する学習の経験が不足していると考えられる。

★ 指導の具体例

対応する値の組を順序よく表などに整理し、変化や対応の特徴としての規則性があるかどうか、ある場合にはどんな規則性があるかを式を用いて表す授業展開を構想する。

★ 表の数値を横に関連付けてみたり、縦に関連付けてみたりすることで、一方が○ずつ増えたときに、他方は◇ずつ増えるなどの変化の特徴や、一方に○を加えると他方と等しくなるなどの対応の特徴を見いだすことができるようにする。

	1	2	3	4	...
三角形の数(□)	1	2	3	4	...
周りの長さ(△)	3	4	5	6	...

1増える 1増える 1増える

2増える

1増える 1増える 1増える

★ 式を用いて変化や対応の特徴を簡潔に表すことができるようにする。

○ 言葉の式や□、△を用いた式で表す。

$$(\text{三角形の数}) + 2 = (\text{周りの長さ})$$

$$\square + 2 = \triangle$$

<指導のポイント>

関数の考えにおいて、規則性を適用する際には、知りたい数量との関係を捉え、どの数値を使うかを判断するなど、筋道を立てて考えることが必要である。